

私の探鳥地（60）（野鳥だより 167号 2012年3月）

伏古公園（札幌市東区）

栗林宏三

私が紹介する探鳥地は札幌市東区伏古1条2丁目にある伏古公園です。札幌小学校に隣接する周囲1,000mほどの公園です。中央に噴水があり、野球やテニスも楽しめ、地域住民の散歩やジョギングのコースとして親しまれています。

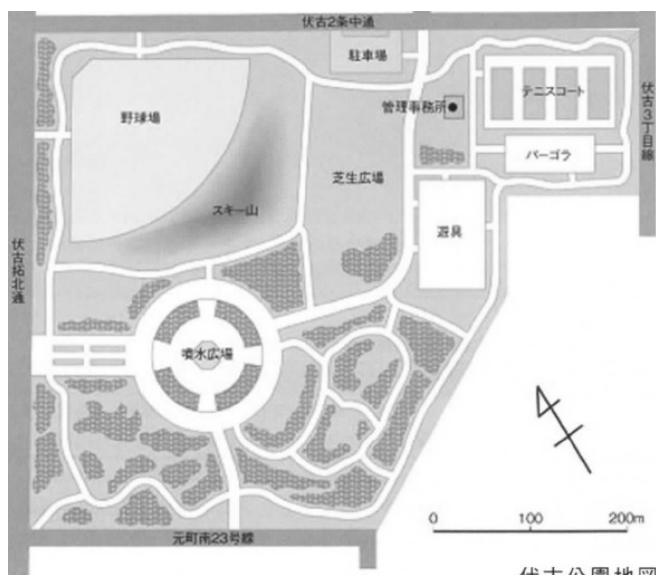
20年前から年間を通して鳥見をしています。住宅街にある公園なので見られる鳥は限られていますが、通年見ることができる鳥はシジュウカラ、ヤマガラ等のカラ類、アカゲラ、ヒヨドリ等です。しかし、春と秋の渡りの季節になるとたくさんの鳥が休息地として利用しています。4月末頃からキビタキ、オオルリなどの夏鳥が見られるようになります。アリスイやカッコウの姿を見ることもあります。クロツグミが朝早くから木の天辺で大きな声でさえずっていたり、コマドリが岩の上で良い声を聞かせてくれたりと、びっくりする光景に出会うこともあります。

この公園は広葉樹、針葉樹、合わせて30種類以上の木が植えてあり、餌になる木の実が多いので秋の渡りの時や冬場にもいろいろな鳥を見ることができます。アカハラ、マミチヤジナイ、コサメビタキは毎年見られます。その年により変わりますが、白樺にはマヒワ、ベニヒワ、赤松にイスカと言った具合に結構楽しめます。ハイタカがツグミやカラ類を襲うこともあります。

私が公園内で一番気に入っている場所は、噴水広場の南側、樹が多くて少し高くなっている所です。そこには東屋やベンチがありゆっくり見ることができます。小さな藪が何カ所もありウグイスやヤブサメを見るポイントになっています。すぐ側にある梅やスモモの木には、春にキビタキ、オオルリがよく立ち寄ります。

今までにこの公園で観察できた鳥は70数種になります。水鳥が見られない、しかも住宅

街にある公園としてはかなり多いように思います。近年は朝早くから犬の散歩やジョギングをする人が多くなりました。又、ドバトやカラスに餌を与える人がいてカラスの数が増えています。小鳥達にはだんだん悪い環境になってきていますが、これからも、環境の変化と鳥の様子を見比べながら観察していきたいと思っています。



伏古公園地図